

現代文 B 3年 課題 No,3 接続語

名前

以下の URL または QR コードから動画を見て、問いに答えましょう。

<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/basickokugo/archive/chapter025.html>



◆接続語とは

「接続詞」「接続助詞」とは、文と文をつなぐ働きをする言葉です。「接続詞」や「接続助詞」をヒントにして、文章の論理(文のつながり・文脈)や文章構成が理解できます。

■話題を「展開」する接続詞

順接…原因・理由から、順当な結果へ導く⇒**だから、したがって、それで、すると、そこで、ので、から、と**

【例】毎日朝食を食べる。**すると**、体調がよい。⇒前文がもたらす順当な結果

逆接…前の内容から、予想と異なる事柄を導く⇒**しかし、ところが、けれども、しかしながら、でも、が**

【例】「継続は力なり」という。**ところが**、実践が難しい。⇒前文から予想されることと異なる

■物事を「列挙」する接続詞

並列・累加…対等の関係で並べたり、詳しく述べたりする⇒**そして、そのうえ、および、また、それから、しかも**

【例】雨が激しく降っている。**そのうえ**、風まで強く吹いてきた。⇒前文と同様によく加わる

対比・選択…物事を比較したり、選択したりする⇒**または、あるいは、それとも、一方、これに対して**

【例】肉料理、**あるいは**、魚料理を選ぶ。⇒どちらか選ばせる

■内容を「補足」する接続詞

説明・補足…前の内容と関連する事柄を詳しく説明する⇒**例えば、なぜなら、もっとも、もちろん**

【例】きょうは気分がよい。**なぜなら**、テストの結果がよかったからだ。⇒前文の理由を説明している

換言…同じ内容を別の言い方で言い換える⇒**つまり、すなわち、要するに**

【例】面倒なことも、一度決心すれば最後までできる。**要するに**、気持ちの問題だ。⇒前の内容を簡潔に言い換えている

制限…前文に対して例外や条件を付け足したり、制限したりする⇒**なお、ただし**

【例】体育祭を実施する。**ただし**、雨天中止とする。⇒前の内容の例外を示している

■話題を「転換」する接続詞

転換…前文とは別の話題に移る⇒**さて、ところで、では**

【例】文化祭では完全燃焼した。**さて**、次は受験勉強だ。⇒前文とは異なる話題に移っている

◆「接続表現」が示す内容を理解する

上下の文は同じでも、接続詞や接続助詞によって伝わる内容が違います。適切に使うことで、話し手(書き手)の感情や意志、主観的な判断などが、聞き手(読み手)に伝わります。

必死に練習した。**だから**(順接)、二位になった。→うれしさ

必死に練習した。**しかし**(逆説)、二位になった。→悔しさ

気持はわかります。**しかし**(逆説)、無理です。→ 前文を客観的にとらえる むじひ 無慈悲

気持はわかります。**けれども**(逆説)、無理です。→ 前文の内容に配慮する 困惑

電車が遅れた**から**(順接の接続助詞)、遅刻した。→ 主観的な判断

電車が遅れた**ので**(順接の接続助詞)、遅刻した。→ 客観的な判断

◆まとめ

「接続詞」「接続助詞」は、**語句や文をつなげるだけではなく、話し手の微妙な心情までも表す**興味深い言葉です。ぜひ、これらの言葉を日常で活用し、言語生活を豊かにしていきましょう。

確認問題 動画を見て答えよう。

Q1 「接続語」についての説明を、次の中から一つ選ぼう。

A 文や語句をつなぎ、その前後がどんな関係にあるかを示す言葉。

B 名詞や動詞などにつながり、その様子を詳しく説明する言葉。

C 前後のつながりと関係なく、単独で特定の意味を示す言葉。



Q2 「必死に練習した。()、2位になった。」という文章の()にあてはまる、「2位になったことが不本意である」ことを表す接続語を、次から一つ選ぼう。

A すると B だから C しかし



Q3 「遅刻してしまった理由」をより客観的に伝えている表現を、次から一つ選ぼう。

A 電車が遅れたのに遅刻した。 B 電車が遅れたので遅刻した。 C 電車が遅れたから遅刻した。



発展問題 次の()に当てはまる接続詞を、後の語群から選び、書き込もう。

① 風邪をひいた。()バイトには行った。

② 横浜()神戸は共に貿易港だ。

③ 雨が降った。()遠足は中止だ。

④ 学校を休んだ。()風邪をひいたからだ。

⑤ コーヒー()紅茶、どちらにしますか。

⑥ 激しい雪だ。()風まで吹き出した。

⑦ 全員揃いましたね。()出発します。

【語群】 A そのうえ B あるいは C では D だから E および F なぜなら G しかし

ないぐ はな も りゆう ふた ひと じっさいてき はな なが ふべん
内供が鼻を持てあました理由は二つある。——一つは実際的に、鼻の長いのが不便だったからである。第一飯を食う時にも独りでは食えない。独りで食えば、鼻の先が 鏡の中の飯へとどいてしまう。

⑧()内供は弟子の一人を膳の向うへ坐らせて、飯を食う間中、広さ一寸長さ二尺ばかりの板

で、鼻を持上げていて貰う事にした。しかしこうして飯を食うと云う事は、持上げている弟子にとっても、

持ち上げられている内供にとっても、決して容易な事ではない。一度この弟子の代りをした中童子が、

嚏をした拍子に手が震えて、鼻を粥の中へ落した話は、当時京都まで喧伝された。——⑨()

これは内供にとって、決して鼻を苦しめたおもな理由ではない。内供は実にこの鼻によって傷つけ

られる自尊心のために苦しんだのである。(芥川龍之介『鼻』)

【語群】 A また B けれども C そこで D つまり

一日も早く、みなさんと一緒に学校で学習できるよう願っています。がんばりましょう！